

資料Ⅱ 特別支援学級（固定学級）のQ&A

Q1	特別支援学級（知的障害）における教科書について教えてください。
A1	文部科学省検定済教科書を基本としながらも、児童・生徒の実態に応じて、文部科学省著作教科書（特別支援学校用）及び区市町村教育委員会が採択している一般図書の中から選択することになります。

特別支援学級（知的障害）の教育課程は、基本的には、小学校・中学校の学習指導要領に沿って教育が行われますが、児童・生徒の実態に応じて、特別支援学校の学習指導要領を参考として特別の教育課程も編成できるようになっています。

したがって、使用教科書は、各学校の教育課程に基づき、下記①から③のいずれかから選択することとなります。

- (1) **文部科学省検定済教科書**：小学校・中学校の通常の学級と同じもの。区市町村教育委員会において採択された発行者に限る。ただし、下学年の教科書を使用することもできます。
- (2) **文部科学省著作教科書（特別支援学校用）**：知的障害特別支援学校用として、下記の教科書が用意されています。

特別支援学校小学部知的障害者用

教科	使用学年	書名	特別支援学校小学部学習指導要領における段階
国語	1～6年	こくご☆	☆ (1段階)
		こくご☆☆	☆☆ (2段階)
		こくご☆☆☆	☆☆☆ (3段階)
算数	1～6年	さんすう☆	☆ (1段階)
		さんすう☆☆ (1)	☆☆ (2段階)
		さんすう☆☆ (2)	
		さんすう☆☆☆	☆☆☆ (3段階)
音楽	1～6年	おんがく☆	☆ (1段階)
		おんがく☆☆	☆☆ (2段階)
		おんがく☆☆☆	☆☆☆ (3段階)

特別支援学校中学部知的障害者用

教科	使用学年	書名	特別支援学校中学部学習指導要領における段階
国語	1～3年	国語☆☆☆☆	☆☆☆☆ (4段階)
数学	1～3年	数学☆☆☆☆	☆☆☆☆ (4段階)
音楽	1～3年	音楽☆☆☆☆	☆☆☆☆ (4段階)

- (3) **一般図書**：特別支援学校及び特別支援学級において、適切な教科書がないなど特別な場合には、これらの教科書以外の図書（一般図書）を教科書として使用することができます。

なお、一般図書については、東京都教育委員会の調査研究資料等を活用し、各区市町村教育委員会において採択する必要があります。

Q2	特別支援学級において、外国語活動を行う場合、どのような内容・方法に留意する必要がありますか。
A2	外国語活動の目標は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に重点が置かれています。特別支援学級においても、英語の表現に親しみながら、学習を工夫する必要があります。

外国語活動とは

小学校5、6年生が対象であり、英語を取り扱うことが原則とされています。外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとすると、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことが目標です。各学校において、児童や地域の実態に応じて学年ごとの目標を適切に定め、2学年を通して外国語活動の目標の実現を図るよう配慮する必要があります。

特別支援学級で行う場合

留意点としては、学級担任やALTなどにより、活発なコミュニケーションを図る活動を工夫します。書いたり、覚えたりすることだけでなく、歌や簡単なゲーム、チャンツ^注などの活動を取り入れながら英語に親しみ、それを使って表現しようとする態度を育てます。

内容例には、次のようなものが挙げられます。

活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見ながらヒントを聞き、どんな動物か考える。 ・動物を表す単語に慣れ親しむ。
取り上げる英単語	elephant monkey cow gorillaなど
取り上げる英語表現	What's this? これは、何 ですか? Is this an elephant? これは象ですか?
準備するもの	動物の絵が描かれたカード
活動内容と流れ	動物カードを二つ折りにし、半分の面を2回見せて、何の動物かを尋ねる、など。

特別支援学級の場合、児童の実態に合わせ、1、2、3、4年生においても英語に親しむ活動を取り扱うこともあります。その場合、1、2年生は生活単元学習などで、3、4年生は総合的な学習の時間若しくは生活単元学習などで実施することも考えられますが、授業の目標、内容をよく考えて取り組む必要があります。総合的な学習の時間で英語に関する内容を実施する場合は、英語に親しむ活動を国際理解教育のねらいの下に実施することが必要です。

注：チャンツとは、歌や単調なリズムのことを意味します。

Q3	特別支援学級において、体育指導を充実させるための留意点は何でしょうか。
A3	体力向上のための年間指導計画を作り、児童・生徒の個人目標を設定する等、児童・生徒が自ら体力向上に励む態度の育成に取り組むことが大切です。

全国の児童・生徒の体力・運動能力は低下傾向にあり、各学校では体力テストを実施して児童・生徒の実態把握をしながら、体力向上のための年間指導計画や児童・生徒の個人目標を設定する等、自ら体力向上に励む態度の育成に取り組むことが期待されています。

特別支援学級における体育指導の充実に向けた留意点としては次の項目が考えられます。

特別支援学級の場合

(1) 一人一人の児童・生徒の運動能力や体力の実態把握

運動面の発達段階や障害による運動能力や体力の偏り等を的確に把握することが大切です。

(2) 体育科年間指導計画の作成のポイント

特別支援学級における体育の充実は、健康、健全な心と体を育てることをねらいとして、個別に目標を設定し、教育活動全体を通して体育に取り組む時間を確保することが大切です。

(3) 主体的に学ぶ態度の育成と運動量の確保

児童・生徒が自ら目標に向かって運動に取り組んだり、自分の興味・関心や運動能力に応じて課題や運動の場を選択したりして、主体的に学ぶ態度を養うことが大切です。

知的障害特別支援学校における体育・保健体育の具体的な内容の例の一部

	小学部1段階 ＜基本的な運動＞	小学部2段階 ＜基本的な運動＞	小学部3段階 ＜基本的な運動＞	中学部段階 ＜陸上運動＞
陸上運動	1 手をひかれて走ったり、一緒に走ったりする。 2 まっすぐに走る。	1 同じ調子でかけ足をする。 2 緩やかなカーブを走る。 3 折り返しリレーなどの遊びをする。	1 全力で短い距離を走る。 2 ジグザグ、S字などのコースに沿って走る。 3 バトンパスによるリレーをする。 4 やや長い距離をゆっくり走る。(5、6分程度) 5 立幅跳び遊びをする。	1 全力疾走する。 2 幅広い障害物を跳び越える。 3 約束を守ってリレーのバトンパスをする。 4 かなり長い距離を走る。(1000mから3000m) 5 走り幅跳びをする。
ボールを使った運動・球技	＜運動遊び＞ 1 ボールを転がしたり、投げたりする。 2 ボールを的当てや籠などに投げ入れる。	＜いろいろな運動＞ 1 ボールをついたり、蹴ったりして遊ぶ。 2 近い距離でボールを投げたり、受けたりする。 3 ボール送りゲームをする。	＜いろいろな運動＞ 1 ボールをけりながら走る。 2 ドリブルをする。 3 円形ドッジボールをする。	＜球技＞ 1 ボールを使ってリレーをする。 2 相手に向かってボールを投げたり、蹴ったりする。 3 簡易なルールでフットベースボール、ティーボール、サッカーをする。 4 簡易なルールでバスケットボール、バドミントン、卓球などをする。

「東京都立特別支援学校小学部教育課程編成基準・資料」から

Q4	特別支援学級において、「環境教育」をどのように取り扱うことがよいですか。
A4	各教科等を合わせた指導である生活単元学習等の中で、それぞれの児童・生徒の課題に応じた実践的な学習として取り上げていくことが大切です。

学校で進める環境教育においては、教育課程の編成、実施の流れの中で、環境に関わる学習の機会や場を計画的に設けるよう工夫して実施することが重要です。特別支援学級においては、学校や学年の取組と関連付けながら、児童・生徒の発達段階や実態に応じて、内容を選択し、学習を計画していく。学習への取組方には次のような段階が考えられます。

- ①「体験を通して感性を養う」段階 ②「課題を発見し、調べ、理解できる」段階
 ③「行動・実践を通じて社会に働きかける」段階 ④「自ら考え、判断できる」段階

各教科内で環境教育を意図した学習を取り挙げながら、他の教科との関連や教科と教科等、また総合的な学習の時間との関連付け、さらに地球温暖化防止に向けた取り組みなどについて計画的に進めることが必要です。

特に、特別支援学級においては、これらの内容について、各教科等を合わせた指導である生活単元学習等の中で、それぞれの特質に応じた学習として取り上げていく必要があります。具体的な取組の事例として、

毎年6月のCO₂削減アクション月間の取組、**「地球温暖化防止小学校学習指導資料 6年生用」平成22年12月**

地域清掃活動や飲料ドリンクのキャップの回収など、児童・生徒に身近な活動を環境教育につなげていくことで、児童・生徒の環境に対しての興味・関心を引き出すことや具体的な行動に結び付けていくことが必要です。

東京都区教育委員会では環境月間である毎年6月を「CO₂削減 アクション月間」としてしています。

保護者の皆様へ

地球温暖化防止のために、CO₂削減は緊急で重要な課題であり、東京都ではCO₂削減に向け、全業をあげて取組を進めていくこととされています。

東京都におけるCO₂削減目標は、平成20年度は約4,000万トンで、平成21年度は約4,000万トンから約0.5%削減しています。その中で、産業部門は約49.9%削減、運輸部門(自動車等)は約0.9%削減、家庭部門は約10.8%削減、教育部門(東京都立)は約23.1%削減とされています。特に家庭部門と運輸部門の削減が急務と見られており、削減量の増大が望まれます。

そのようなか、今年6月に実施したCO₂削減アクション月間では、都内の小学校3年生と中学校1年生を中心に約15万人の子供たちが「リサイクル」をテーマに、身近な取組から、みんなが取り組むCO₂削減の取組を進めることができました。

一人一人の取組が小さなことであっても、多くの子どもたちが取り組むことによって大きな成果につながることを実感できたのではないかと思います。

このことは、大人も子どもも環境意識に関心を持ち、各々の取組として行動していくことによって、この社会に大きな変化をもたらすことができます。

小学校6年生では、理科や家庭科などの授業で環境について学習します。学習を通して身につけたことを活用して、早速に実践的な行動に挑戦しよう。このリポートを基に、すべてが小学校6年生に配布しました。お子様と一緒に環境について考え、行動を進めるために活用してください。

編者・発行：東京都教育庁生涯学習課環境教育推進課 監修：E70
 平成22年12月 東京都教育委員会

みんなの地球 地球温暖化防止の学習資料 6年生用

今、地球上では、地球温暖化が主な原因と考えられる気候の変化により、次のような影響が心配されています。

- 食料の不安
- 生物多様性の減少
- 海面上昇
- 自然災害の増加

このような影響が現れる**地球温暖化**とは、どのようなことなのでしょう？

資料編
資料Ⅱ

Q5	特別支援学級におけるキャリア教育の充実に向けて考え方を教えてください。
A5	キャリア教育の全体計画を作成、キャリア教育に関する内容を各教科及び各教科等を合わせた指導の中で、計画的に位置付けていくことが大切です。

キャリア教育とは

キャリア教育とは、児童・生徒一人一人の状況に応じて、中学校を卒業後の生活を視野にいれ、「自立と社会参加」を目指し、社会的自立や職業的自立そして自己実現を果たしていく力を育てる教育です。小学校段階から中学校にかけて各学習段階に応じて、必要なキャリア教育の内容を計画的に位置付けていくことが大切であり、各教科及び各教科等を合わせた指導、そして領域の中で、キャリア教育に関する能力形成を図る視点からの教育活動の見直しが求められています。

キャリア教育と進路指導について

各学校で取り組まれている進路指導の内容は、キャリア教育の中核を担っていると言えます。キャリア教育は、教科、道徳、総合的な学習の時間など関連する諸活動を体系化し、組織的・計画的に実施されるので、従来の進路指導に比べて、より広範に教育活動を展開することが期待されています。

また、キャリア教育は、児童・生徒の自己理解や生き方などに関わる内容を扱うため、保護者の理解や協力が不可欠です。保護者会やお便り、資料などを通して、考え方や取組を丁寧に説明するようにしていくことが大切です。

体験活動とキャリア教育

体験活動は、キャリア教育を推進する取組みの一つとして位置付けられます。体験活動には、達成感や満足感を得ることによる自信や自己有用感の獲得、働くことや学事への意欲の向上など様々な効果が期待できます。ねらいを明確にして、他の教育活動と関連付けたり、事前事後の指導について工夫したりすることが重要です。

キャリア教育の評価について

キャリア教育の実践が、各学校の教育目標を達成し、より効果的なものになるようにキャリア教育の目標を明確にした上で、児童・生徒の状況や学校・地域の実態に留意して各学校のキャリア教育の達成状況や実践過程での評価を行います。また、振り返りや自己評価を通して、児童・生徒自らが成長を実感できるようにすることも大切です。

「特別支援学級におけるキャリア教育の推進」(平成22年3月) 指導部指導資料から

特別支援学級におけるキャリア教育の推進

キャリア教育の視点で見つめ、キャリア教育を実践しよう！



キャリア教育の視点って、何？

A 将来の社会的自立・職業的自立を念頭に置きながら、子供たちの成長や発達を促進しようとする見方をもつことです。

キャリア教育の視点

- これまでの実践をキャリア教育の視点で見え、児童・生徒が自己の生き方と働くことを関連させる。
- 特別支援学級の実態に合わせた項目にし、指導・支援の日常化を図る。

<職業的(進路)発達に関する諸能力>

人間関係能力	情報活用能力
自己の理解能力	情報収集・探求能力
コミュニケーション能力	職業理解能力
将来設計能力	意思決定能力
役割把握・認識能力	選択能力
計画実行能力	課題解決能力

文部科学省「キャリア教育推進の手引」(平成18年11月)

<特別支援学級におけるキャリア教育の視点>

コミュニケーションなどの視点	調べ等の視点
あいさつ・返事・社会性	調べる・活用する
コミュニケーション	分からないことを質問する
計画等の視点	自己決定等の視点
自己決定	自己決定
時間管理・役割理解	自分で選択・自分で決定
生き方進路・実行する	課題解決・働く意欲

特別支援学級キャリア教育発達段階表(1期)

領域	小学校	小学校
特別支援学級における視点	1期(小学1年~3年)	1期(小学1年~3年)
コミュニケーション等の視点	生活にかかわる基礎的スキルの獲得の時期	生活にかかわる基礎的スキルの獲得の時期
人間関係形成能力	自分の好きなこと、嫌いなことをはっきり言う。 友達と仲良く遊ぶ。 あいさつや返事をする。	自分の好きなこと、嫌いなことをはっきり言う。 友達と仲良く遊ぶ。 あいさつや返事をする。
情報活用能力	自己紹介(日常生活の指導) 対人・グループ遊び(遊びの指導) 協力して活動する(自立活動) 正しい言葉遣い(国語)	話し合い活動(学級活動) 集団遊び(遊びの指導) 責任・協力(委員会活動) 目的に応じた話し方(国語)
情報活用能力	分からないことを聞くことができる。 関心のある話題に興味をもつ。	分からないことを、図鑑などで調べたり、質問したりする。 身近で働く人々の様子が分かる、興味をもつ。
将来設計能力	質問の仕方(日常生活の指導、国語) 図鑑や本で調べる (生活単元学習、総合的な学習の時間) 身近なことへの気付き(生活単元学習) 仕事への興味・関心 (生活単元学習、総合的な学習の時間)	施設を見学する(総合的な学習の時間) インターネットの使い方(総合的な学習の時間) 調べ学習(総合的な学習の時間) 仕事の技能(日常生活の指導)
将来設計能力	家の手伝いや割り当てられた仕事、役割ができるようになる。 時間の管理・実行 生き方進路・実行する	家の手伝いや割り当てられた仕事、役割ができるようになる。 時間や決まりを守り、作業の手順が分かる。
自己決定能力	自分の好きなものを選ぶことができる。 自分のことは自分で行うとする。	自分のやりたい、あるいは自分が必要だと思える学習に進んで取り組む。 自分の仕事に対して責任をもち、最後までやり通そうとする。

キャリア教育発達段階表(Ⅱ・Ⅲ期)

領域	小学校	中学校
特別支援学級における視点	Ⅱ期(小学4年~6年)	Ⅲ期(中学1年~3年)
コミュニケーション等の視点	職業及び生活にかかわる基礎的スキルの獲得の時期	職業及び卒業後の生活に必要なスキルの獲得の時期
人間関係形成能力	自分や友達の良いところを認め、助め合う。 友だちと協力して、学習や活動に取り組む。 あいさつや返事をする。	自分や友達の良いところを見つけて、友達の良いところを認める。 相手の立場に立って、考え行動しようとする。 困ったときに自ら支援を求めたり、相談できるようにする。 自分から進んであいさつや返事を行う。
情報活用能力	話し合い活動(学級活動) 集団遊び(遊びの指導) 責任・協力(委員会活動) 目的に応じた話し方(国語)	服装、身だしなみ、言葉遣い 集団生活の指導、職業・家庭、作業学習 集団演技(保健体育) 性に関する指導(日常生活の指導、保健体育)
情報活用能力	分からないことを、図鑑などで調べたり、質問したりする。 身近で働く人々の様子が分かる、興味をもつ。	実習や職場見学を通して、働くことの意味や働く上で必要なルール、マナーを理解する。
将来設計能力	施設を見学する(総合的な学習の時間) インターネットの使い方(総合的な学習の時間) 調べ学習(総合的な学習の時間) 仕事の技能(日常生活の指導)	職業の意義と役割(職業・家庭) 健康管理(保健体育) 望ましい勤労観・奉仕の活動(総合的な学習の時間) 社会人や卒業生の話を聞く会(総合的な学習の時間) 職場訪問・職場体験活動(総合的な学習の時間)
将来設計能力	家の手伝いや割り当てられた仕事、役割ができるようになる。 時間の準備や片づけをする。	社会生活には色々な役割があることを理解し、その大切さが分かる。 将来の進路希望に基づいて目標を立て努力する。
自己決定能力	自分の好きなものを選ぶことができる。 自分のことは自分で行うとする。	余暇利用(生活単元学習、総合的な学習の時間) 健康管理(保健体育) ライフプラン(職業・家庭、総合的な学習の時間) 学習計画の作成・見直し・まとめ(総合的な学習の時間)
自己決定能力	自分の好きなものを選ぶことができる。 自分のことは自分で行うとする。	自分や友達の良いところを認め、助め合う。 友だちと協力して、学習や活動に取り組む。 あいさつや返事をする。
自己決定能力	好き、嫌いの意思表示(日常生活の指導) 自分のことをすすんで行う (日常生活の指導)	遠征、修学旅行(学校行事) 進路相談(日常生活の指導) 課題解決学習(総合的な学習の時間、各教科) 各学期のまとめ(生活単元学習、学級活動)